



日本遺産認定記念 観光ビジネス キックオフシンポジウム

日本遺産 甲賀市の可能性

～オール甲賀で考える 観光ビジネス～



2017年8月17日(木) 19:00～21:00

<場所> あいこうか市民ホール

次第

1 開会

2 基調講演

「日本遺産による地域活性化」

二之湯武史 氏（日本食文化普及推進議員連盟事務局長）

3 シンポジウム

＜コーディネーター＞ 岩永裕貴（甲賀市長）

＜シンポジスト＞



二之湯 武史氏

日本食文化普及
推進議員連盟
事務局長



金野 幸雄氏

一般社団法人ノオト
代表理事
民泊、空き家活用と
地域再生



他力野 淳氏

バリューマネジメント株式会社
代表取締役
空き家の観光活用
歴史的遺産(建造物)の利活用



畑中 英二氏

京都市立芸術大学
准教授(陶磁史・考古学)
信楽焼・忍者の研究

4 閉会



日本遺産とは…

我が国の文化財や伝統文化を通じた地域の活性化を図るためには、その歴史的経緯や、地域の風土に根ざした世代を超えて受け継がれている伝承、風習などを踏まえたストーリーの下に有形・無形の文化財をパッケージ化し、これらの活用を図る中で、情報発信や人材育成・伝承、環境整備などの取組を効果的に進めていくことが必要です。

地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産 (Japan Heritage)」として文化庁が認定し、ストーリーを語る上で不可欠な魅力ある有形・無形の様々な文化財群を総合的に活用する取組が支援されます。

日本遺産を2020年までに100件程度認定される予定で、現在3年間で54の日本遺産認定ストーリーがあります。

甲賀市の2つの認定ストーリー

忍びの里 伊賀・甲賀 —リアル忍者を求めて—

<ストーリーの概要>

忍者は今やテレビやアニメを通じて海外にまで広く知れ渡り、奇抜なアクションで人々を魅了している。忍者の名は広く知られていても、真の姿を知る人は少ない。伊賀・甲賀は忍者の発祥地として知られ、その代表格とされてきた。

複雑な地形を利用して数多くの城館を築き、互いに連携し自らの地を治め、地域の平和を守り抜いた集団であり、伊賀・甲賀流忍術は、豊かな宗教文化や多彩な生活の中から育まれた。忍びの里に残る数々の足跡を訪ねれば、リアルな忍者の姿が浮かび上がる。

伊賀・甲賀、そこには、戦乱の時代を駆け抜けた忍者の伝統が今も息づいている。

きつと恋する六古窯 —日本生まれ日本育ちのやきもの産地—

<ストーリーの概要>

瀬戸、越前、常滑、信楽、丹波、備前のやきものは「日本六古窯」と呼ばれ、縄文から続いた世界に誇る日本古来の技術を継承している、日本生まれ日本育ちの、生粋のやきもの産地である。

中世から今も連綿とやきものづくりが続くまちは、丘陵地に残る大小様々の窯跡や工房へ続く細い坂道が迷路のように入り組んでいる。恋しい人を探すように煙突の煙を目印に陶片や窯道具を利用した塀沿いに進めば、「わび・さび」の世界へと自然と誘い込まれ、時空を超えてセピア調の日本の原風景に出会うことができる。